
シドニー五輪に学ぶ

～開催前から現在まで続くスポーツレガシー～

第6回笹川スポーツ財団スポーツアカデミー

本間恵子（日本スポーツ振興センター/情報・国際部）

2015年10月29日



Before starting....



スポーツとの関わり:レクリエーションスポーツ

研究活動:オリンピックのスポーツレガシー
(シドニー大会とオーストラリアのスポーツ政策事例)

現在の仕事:国内外のスポーツ政策分析(参加促進施策)

本日の内容は、現職に就く前に行っていた研究活動に基づく個人的な見解です。

Contents

1. オリンピックの
レガシーとは

2. 2000年シドニー
大会のスポーツ
レガシー事例

3. 2020年東京大
会 of スポーツレガ
シーに向けて

1. オリンピックのレガシーとは

WHAT IS THE OLYMPIC LEGACY?

1-1.インパクト (Impact) からレガシー (Legacy) へ

オリンピックのインパクト (Impact)

- ・影響・効果全般を指す。
- ・「オリンピックのインパクト」としては、開催直後の影響・効果を指す場合に使われる。
(例: 経済効果、環境への影響など)
- ・インパクトは短期的な悪影響を示唆するときに使われる傾向がある。

オリンピックのレガシー (Legacy)

- ・「legacy」は古くから残っているもの全般を指すが、未来に残す場合にも使われる。
- ・2000年代以降、未来に何を残すのかという観点から「オリンピックのレガシー」が検討されるようになった。
- ・インパクトよりも長期的かつ良い効果が想定されている。

1-2. レガシーへの着目

2002年に開催されたレガシーに関する初の国際シンポジウム
「The Legacy of the Olympic Games 1984-2000」

1984年ロサンゼルス大会から商業化導入により、ステークホルダーの増加等でオリンピック開催による影響拡大

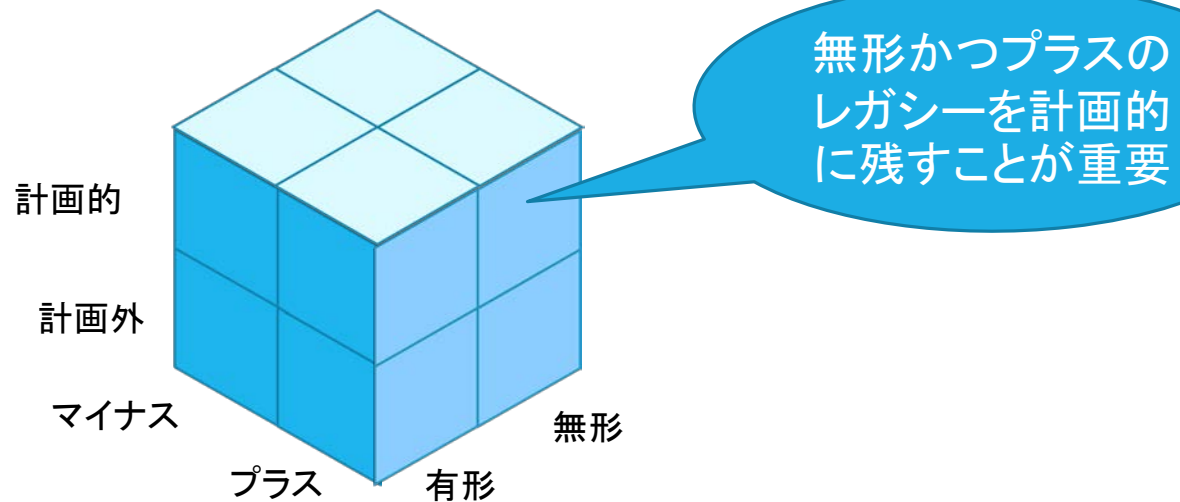
1990年代、環境問題や持続可能な発展への国際的な関心拡大



＜シンポジウムの結論＞
招致時点からレガシーを計画すること、長期的な視点を持つこと、
オリンピズムのミッションを理解することが必要

1-3. レガシーの分類1

レガシーキューブ (Gratton & Preuss, 2008)



しかし、レガシーを明確に分類するのは非常に難しい (IOC, Cashman)

1-3. レガシーの分類2



1-5. オリンピズム (Olympism) とはー1

近代オリンピックの創始者クーベルタン男爵が作った言葉

Olymp-ism: オリンピック主義

1890年、英国のMuch Wenlockを訪問し、ブルックス博士に出会う
→健康増進のためにオリンピック開催

1892年、オリンピックの復興をレクチャーで公言

1894年、オリンピック・ kongress、IOC設立

1896年、第1回近代オリンピック競技大会開催

スポーツを通じた身体・精神・
人間性の向上を目指す



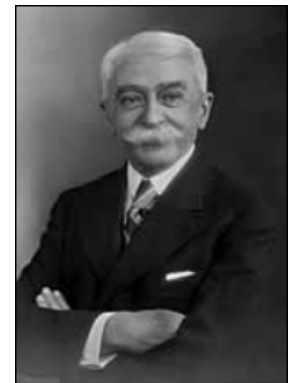
1-5. オリンピズム (Olympism) とはー2

スポーツを日常生活に取り入れ、個人の成長に役立てるには、オリンピックの開催だけでは不十分、オリンピック教育が必要

1919年、「Sports for All」を新しい目標にすると書簡で宣言 (*All sports for all people, that is the new goal to which we must devote our energies, a goal that is not in the least impracticable.*)

1925年、IOC会長退任、「国民の多くがスポーツを希求したとき真のスポーツ大国となる」 (*A country is not truly sporting until the day when the greater part of its citizens feel a personal need for sports.*)

スポーツ振興が重要



1-6. IOCによるオリンピズム実現の取組み



Sport for All

Peace through sport

Development through sport

Women and sport

Education through sport

Sport and environment

1-7. スポーツレガシー研究の現状

IOCのOlympic Global Impact (OGI)研究: 招致時点から開催後3年間を対象に、経済・社会文化・環境の3分野にわたる約120の指標に基づくデータを収集して、IOCに報告

オリンピック開催前後のスポーツ参加率に着目した研究

オリンピック開催後のスポーツクラブ入会者数に着目した研究



オリンピック開催によって、スポーツ参加が増えたことを示す証拠はない (Veal and Frawley, Weed *et al.*) = 結果に着目した研究の限界

1-8. スポーツレガシー研究の現状の課題

データ収集の難しさ

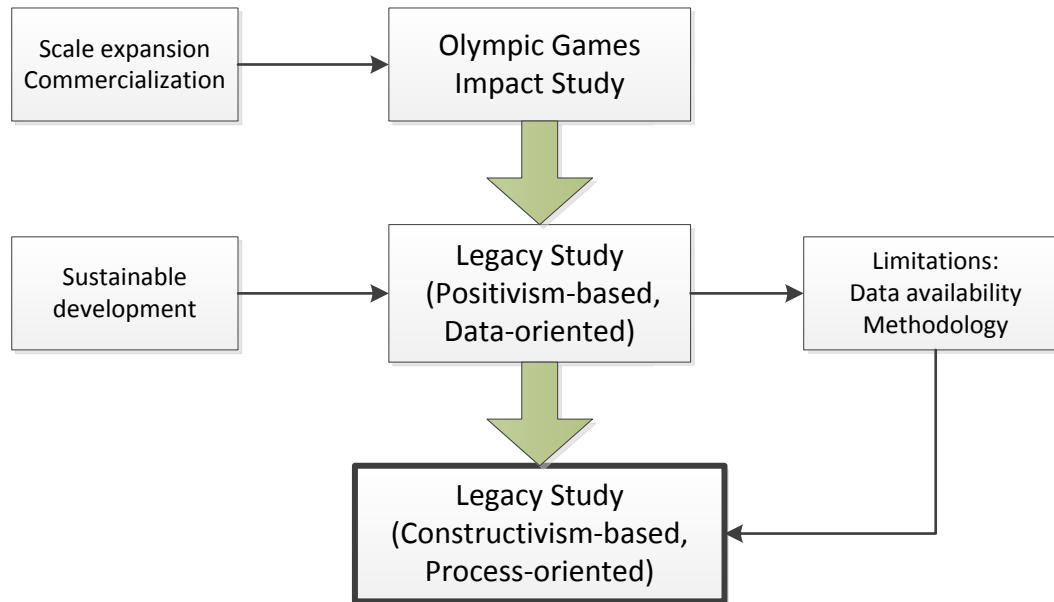
方法論・用語解釈の不一致

対象期間の短さ

<例>

- 影響・効果を測る指標に基づくデータを、開催都市は揃えることができていない
- データ元の調査方法や、スポーツ参加率の定義が異なり、比較できない
- 大会直前・直後のデータ比較に着目しているため、長期的な視点に欠けている

1-9. 理論的アプローチの概念図



2. 2000年シドニー大会のスポーツレガシー事例

CASE STUDY: SPORT LEGACY OF THE 2000 SYDNEY GAMES

2-1. オリンピックパークの変遷

- ・招致前の開発計画
- ・開催決定後の1995年基本計画
- ・開催後の2002年基本計画
- ・2025年構想計画と2030年基本計画、スポーツハブと複合都市化



2-2. シドニーアクアティックセンター

- ・招致前からSport for All施設として計画
- ・招致決定の翌年にあたる1994年にオープン
- ・競技用プールとレクリエーション施設が共存



2-3. ピエール・ド・クーベルタン賞

高校生を対象にスポーツマンシップを発揮した学生に贈る賞
オリンピック招致を盛り上げるために1992年に提案、1993年に
NSW州の高校で試験的に導入
1994年から正式展開、1995年以降は他の州にも拡大
オリンピズムについて学ぶ機会を提供
2012年に20周年、累計で1万2700人の生徒が受賞



2-4. シドニーマラソン

一般市民を対象とした参加型のスポーツレガシーとして、陸上競技連盟 (Athletics Australia) とNSW 州政府が2001年から開始

従来からローカルイベントとして存在していたが、オリンピック後は国際イベント化

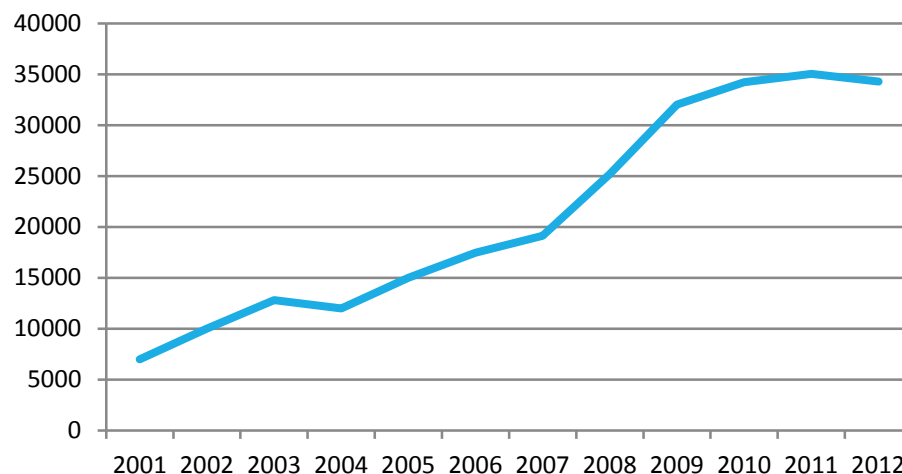
シドニーオリンピック開会式を記念して、毎年9月中旬の日曜日に開催

寄付プログラムによる社会貢献

国内・海外とも参加者増加

スポーツとツーリズムが一体化

<参加者数の推移>

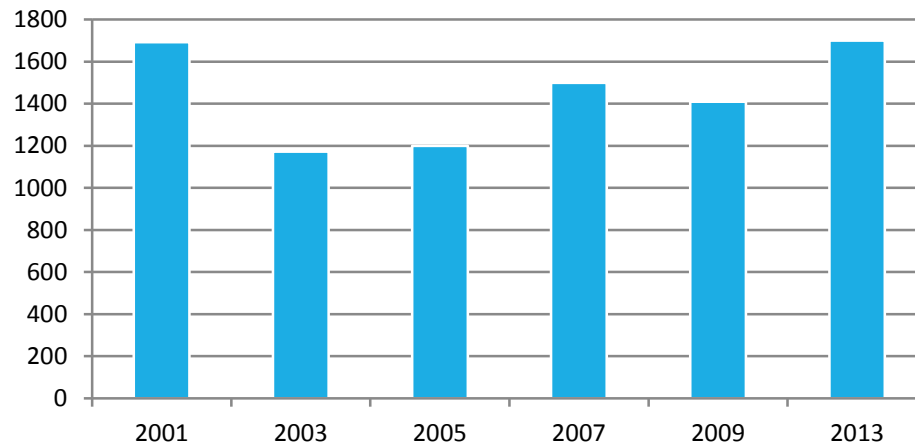


2-5. ユースオリンピック・フェスティバル

オリンピック開催の収益を元に、将来のオリンピック選手育成とオリンピック体験を目指して2001年に開始した国際イベント

2009年までは2年ごと、その後IOCのユースオリンピック導入に伴い、4年ごとに変更
オリンピズムについて学ぶ機会を提供

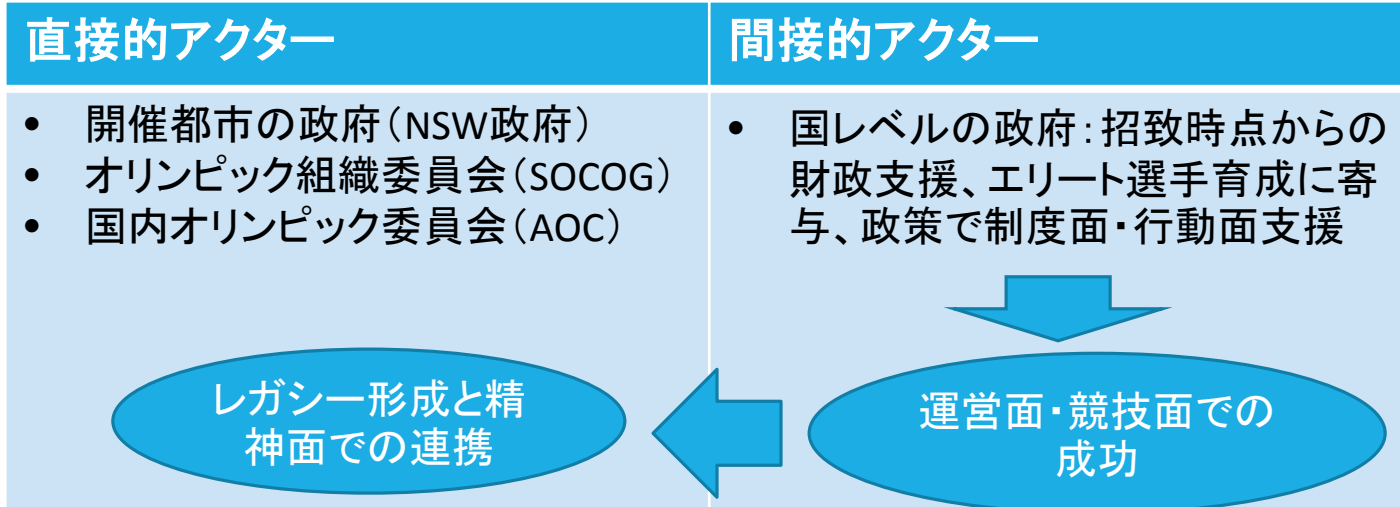
<参加選手の推移>



3.2020年東京大会のスポーツレガシーに向けて

FOR SPORT LEGACY OF THE 2020 TOKYO GAMES
AND BEYOND

3-1.スポーツレガシー形成のアクター



3-2. スポーツレガシー形成へのスポーツ政策の寄与

